

課題項目	重点目標	達成基準	具体的取組	評価結果	課題点・改善案	所管
社会性獲得を目指した教育システムの構築	社会人基礎力の育成	協働力育成科目(総合Ⅰ～Ⅲ)を生徒の学習状況に沿った到達目標に再設定し、教材の見直しをおこなう	・前期:総合Ⅰ～Ⅲを検証し、レベル設定、授業回数、運営方法の課題点抽出をおこなう ・後期:具体的な授業案作成と教員研修をおこなう	出席率、レポート提出率、成績等をもとに現状分析と検証をおこなった。授業内容・運営ともに予定通り実施できた。課題点を学年毎に抽出し、次年度に向けた変更案を作成、後期に改善できる内容は変更実施した。	2025年度に向けて総合Ⅰはクラス毎に到達目標を再調整。総合Ⅱは授業内容と到達目標の設定見直しと授業運営のバランスを修正。総合Ⅲは総合型選抜入試対策強化としてテーマ見直しをおこなう。	教務部
		2・3年生対象の発想力育成科目(産学連携Ⅰ)の2025年度導入に向けてトライアル講座を実施し、その結果を踏まえてシラバスを作成する	・前期:外部連携先の選定および講座案作成 ・後期:トライアル講座実施および課題点の修正	前期の協働力育成科目(総合Ⅰ～Ⅱ)に対する理解度、課題取組速度を分析。結果を踏まえて後期に2年生を対象とした発想力育成講座「産学連携Ⅰ」を試験的に実施した。	2024年度実施した「産学連携Ⅰ」の結果分析により抽出した課題点の抽出を踏まえて授業案を作成し、正課科目として2025年度に開講する。	
		対話的教育手法の質向上を目的に運用フローを体系化する	・前期:研修会等を活用して目的別フローを作成する ・後期:各教科で試験導入をおこない、2025年度本格導入に向けた実施案を作成する	前期は研修会で目的目標の共有と年間取組計画を作成。後期から各教科で試験導入。教員相互の授業見学、内容の共有化と課題点抽出に取り組んだ。	検証結果から対話型教育手法の目的と活用方法が明確となった。2025年度はこれを軸として授業構成と運営に全教科で取り組む。	
		地域連携科目の2025年度導入に向けてシラバスを完成させる	・後期開講した発想力育成科目の試験導入結果を分析し、年度末までに理解度を踏まえて授業内容、外部連携方法、配当年次を決定する	トライアルとして実施した「産学連携Ⅰ」の生徒のスキル等、学習状況から2025年度の企業連携科目「産学連携Ⅱ」開講は厳しいと判断した。	生徒の企業連携に求められるスキル、取組意識等を向上させる必要がある。2025年度開講する「産学連携Ⅰ」を通して対象生徒の育成と授業運営のノウハウを蓄積し、2026年度開講に向けて準備する。	
	キャリア教育及び指導の充実	学習目的別の学習支援講座を構築、実施する	・前期に自主活動支援講座運営チームを立ち上げ、トライアル講座を開講する ・2025年度本格導入に向けてプログラムを体系化する	基礎、標準、発展に分けて学習支援講座を開講。参加者の学習状況を踏まえて後期は一部教科別に変更。国語は文章検定受験講座を開講し、22名が受講。17名が検定を受験し、15名が合格した。	2025年度は国語、英語、美術の3教科で進学支援講座を開講。1年次後期から3年次前期まで継続したサポート体制を構築する。また、文章検定講座に加えてDMM英会話講座等、幅広い学習者層の支援にも取り組む。	プロジェクト
		レポート課題の合格률을前年度よりも向上させる	教科特性に合わせたオンライン教材を作成し、後期から在校生サイトにより提供する	生徒要望と学習状況から自主学習用の教材開発から対面指導型学習支援講座に切り替えた結果、1年生99.4%(前年度91.1%)、2年生99.4%(前年度86.1%)3年生99.7%(前年度56.7%)となった。	・レポート・テスト対策講座を教科特性に応じた運営方法に改善実施する。 ・レポート課題の内容、レベル、量等を検証し、結果に基づいて作問する。	教科
		・1年生の進路イベント参加率70%を達成する ・2年生の希望進路決定率70%を達成する	・1年生は仕事、進路を切り口としたキャリアイベントを通年開催する ・2年生は進路指導、春期スクーリング進路支援講座を改善実施する	仕事と進学を切り口に分野別説明会を開催。プロフェッショナル科目の履修状況と個人面談結果を春期スクーリングに反映。結果、1年生進路イベント参加率73.3%、2年生希望進路決定率77.1%となった。	キャリア意識の醸成、進路指導の早期化を目的として2025年度から「キャリアデザインⅠ」を1年生必修科目として導入する。	進路部
		生徒主導型課外活動の企画数を前年度よりも増やし、参加率を前年度比10%引き上げる	前期に課外活動支援チームを立ち上げ、教職員サポートのもとで同好会発表イベント、学園祭、スポーツフェスを生徒主導型運営に切り替えて試験的に実施する	学年を超えた生徒運営チーム結成。教職員指導のもと企画・広報に取り組み実施。参加率は、体育祭45.8%(昨年24.1%)、文化祭は68.5%(昨年60.7%)と改善した。	・生徒運営組織を設置し、同好会発表、スポーツ祭、文化祭を運営する。 ・生徒活動内容と教員支援内容を明確化する ・振り返りと次年度の改善案を作成する	生徒部
学力向上を目指したカリキュラム改革	カリキュラムと運営の見直し	学習状況・進路希望に合わせて再編したカリキュラムと年次配当に対する運用状況の確認と成果検証をおこない、2025年度カリキュラムに反映させる	変更した教科(工芸・地学・情報)の状況分析・効果検証をおこない、年内に2025年度カリキュラム計画を完成させる	変更教科(工芸・地学・情報)の生徒の履修希望、出席状況、単位認定試験結果をもとに検証した。	工芸と地学(地学基礎は継続)の開講は見送り、情報は1年次配当に変更する。	教務部
		ICTを使った学習システムの効果検証をおこない、新たな活用方法のマニュアルを完成させる	前期末に検証をおこない、学習指導や保護者への学習状況報告等、効果的な活用方法の運用マニュアルを年度末までに作成する	新教務システムは業者と連携しながら適宜修正、改善をおこなった。保護者への学習状況通知システムは、次年度導入に向けてマニュアル作成と試験運用に取り組んだ。	ロイロノートの本格導入により、スクーリング授業の質向上と試験対策講座の運用改善に取り組む。新教務システムおよびレポート課題アプリを活用した保護者への学習状況通知システムを導入する。	
		国語力(文章力・読解力)育成プログラムを構築し、後期から試験導入する	・プロジェクトチームを組織し前期末までにプログラムを構築する ・後期に試験運用と検証改善をおこない、年度末までに2025年度導入案を完成させる	「総合」の振り返りシートのフォーマットを作成し、後期から運用開始。次年度開講科目「キャリアデザインⅠ」にも導入する。文章検定講座を試験導入した。	「総合」の振り返りシートを一部修正し、2025年度開講科目「キャリアデザインⅠ」に活用する。併せて2025年度後期から文章検定講座を本格導入する。	プロジェクト
	学習意欲の向上	リメディアル学習の見直しにより基礎科目の成績を5%向上させる	学習状況を見ながら教科毎にタブレット学習と対面授業のバランスを見直す	生徒の学力にバラツキがあり、理解スピードも異なるため、生徒の実態に合わせ、科目毎に工夫を凝らした授業構成に変更し、実施した。その結果、成績は1.5%向上したが目標には届かなかった。	授業構成や指導方法の見直しに伴い、2025年度からアプリ主導型の学習形態から、教員主導型の学習形態に変更する。それに伴い、タブレット教材も「すらら」から「スタサブ」に変更する。	教務部
教育力強化に向けた体制の構築	教育の質を高める業務改善	新教務システム導入に伴う業務見直しとマニュアル作成を完成させる	新システム導入に伴う教学業務見直し、安定運用に向けた業者連携と学内共有をおこなうことで、分かりやすいマニュアルを年度末までに完成させる	出席状況や試験結果等のシステム管理が可能となり、業務効率化が促進された。新教務システム上の不具合等は適宜修正改善し、問題なく運用ができています。	新たな不具合等が発生した際は、迅速な対応とマニュアルの修正、全体共有を図ることで再発防止に努める。	教務部
		分掌業務の整理および運営マニュアルの改善に取り組み、改定版マニュアルを作成する	・各分掌の年間業務計画を前期末までに見直し、課題点を抽出する ・改訂版マニュアルを年度末までに完成させる	年間計画を詳細に設定することで滞りなく進行できている。ただし、ベテラン教職員に業務が偏る傾向がみられる。	・新着任の教職員が分かりやすいマニュアルに改善することで業務分担のバランスを是正する。 ・業務取組時期の見直しにより業務分散化、平準化に取り組む。	教務部 進路部 生徒部
		RSTと春期スクーリングの検証改善をおこない、2025年度運営に反映させる	・教学運営の検討チームを組織する ・RST運営方法、課題レベル、春期スクーリングの見直しをおこない、春期スクーリングは今年度から改善案の導入を図る	課題取組推進チームを中心に、対話型授業や進路支援など、改善策を提示した。ロイロノートの試験導入、Smarty改善、レポート課題見直し、春期スクーリングの効果検証に取り組んだ。	2024年度に取り組んだ内容と改善策をすべて2025年度運営計画に反映させる。	プロジェクト
	学習成果の可視化	新成績評価制度の運用に対する検証改善をおこない、結果を2025年度運用マニュアルに盛り込む	評価方法の妥当性および運営方法の検証をおこない、年度末までに改善案を完成させる	従来の評価制度よりも正確な評価が出せるようになった。一方で前期試験を実施していない科目は前期評価がレポート、スクーリングのみとなり、前後期試験実施科目と比較して正確な評価が課題となった。	1、2年生は中間試験を実施しない科目もあるが、3年生は進路指導に活かすために全科目に中間試験を導入。2024年度改善案に基づいた成績評価をおこなう。	教務部
		・2023年度の自己点検評価を公開する ・評価方法の検証改善をおこない、2024年度に反映させる	・前期中に2023年度自己点検評価を公表する ・前期末までに改善案を作成し、修正案に基づいて2024年度自己点検評価を実施する	前期中に2023年度自己点検評価を公開した。2024年度は前期終了時に中間チェックをおこない、取組課題の見直しと一部修正し、年度終了時に点検評価を実施した。	2025年度前期中に評価結果を公開する。併せて第三者評価導入に向けて運用案を作成し、運用を開始する。	